



八重瀬町公式観光キャラクター  
やえせのシーちゃん

# 観光と生活とのバランスに向けて 「道の駅」的施設が為しうる工夫の提言

琉球大学国際地域創造学部観光社会学ゼミ (R3年度3年次)

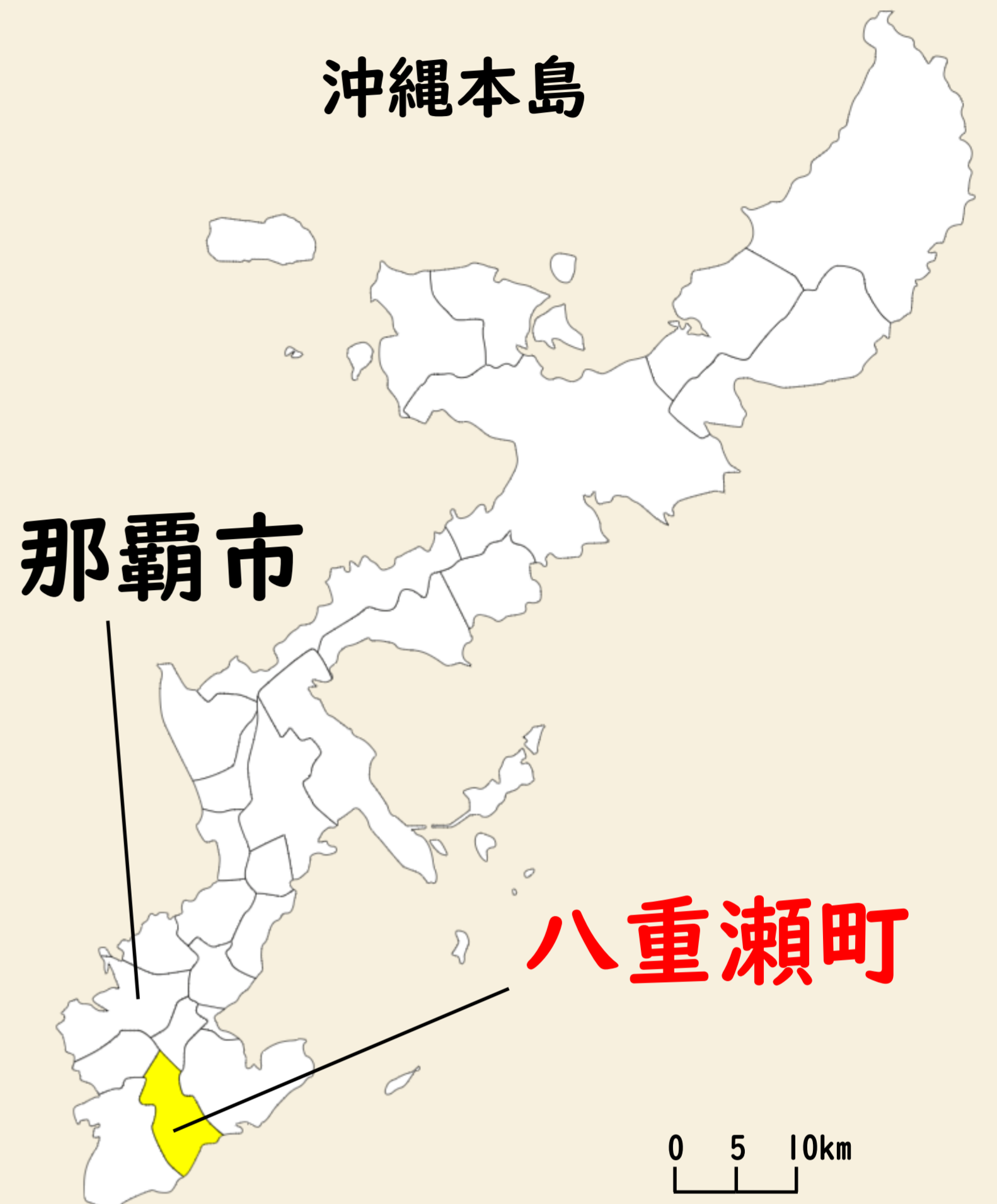
普久原 秀斗・我那覇 莉望・林 花・比嘉 真菜・慶田城 美優  
・金城 百香・金城 瑠夏・中村 みく・砂川 莉子・瑞澤 慧・米本 烈

## 提言の元となった調査

沖縄県八重瀬町は、沖縄本島南端に位置する、面積26.96km<sup>2</sup>、人口32,097人(2021年11月現在)の、農漁業を主産業とする町である。本島南部主要観光ルートの中途に位置するが、主だった観光地はなく素通りされているのが現状である。

その中において2017年、町によって「南の駅やえせ」が、「観光交流拠点」として開設された。いわゆる「道の駅」的な施設である。

私たちは本年、観光と地域生活のバランスのあり方について考察するために、この「南の駅やえせ」を対象とし、有意選出した関係者8名への半構造化インタビュー調査を中心とした研究を行った。その結果に戻づいて導き出した結論が、下記のものである。



## 提言の元となった結論

観光と地域のバランスを図るうえで「道の駅」的施設がその核として機能するためには

- 単に入込数や観光収入だけを求めるような観光振興策を先に進めるべきではない。
- むしろまず、地域住民の生活拠点（「小さな拠点」）としての機能をさらに充実させることを目指すべきである。
- そのうえで、あくまでその機能を基盤とする限りにおいて、そこに上積みする形でできる範囲での観光振興を行うことが望ましい。

これらのプロセスを経ることにより、地域がどのような観光なら受け入れられるのかについて、観光側でも地域側でも理解が進み、双方が協働して達成できるバランスの取り方を見定めることに繋がるのではないかと。



南の駅やえせHPより転載





八重瀬町公式観光キャラクター  
やえせのシーちゃん

# 観光と生活とのバランスに向けて 「道の駅」的施設が為しうる工夫の提言

琉球大学国際地域創造学部観光社会学ゼミ (R3年度3年次)

普久原 秀斗・我那覇 莉望・林 花・比嘉 真菜・慶田城 美優  
・金城 百香・金城 瑠夏・中村 みく・砂川 莉子・瑞澤 慧・米本 烈

## 提言

では、「住民の生活拠点の充実」を基盤として「そこに上積みできる形」での観光振興とは、具体的にどのようなものがあり得るだろうか。

私たちは調査地が抱えている地域課題の1つに注目し、1つの提言を考えた。

### 地域課題の1つ

生活地内に残存する史跡などの中には、地域集団による組織的な管理が行われておらず、一部住民の善意による不定期な草刈りが行われるのみであったり、生活排水による汚染が懸念されたりしているものがある。その中には「八重瀬八景」として町により指定されているものもある。

これは、地域資源の価値が低下している傾向を表しており、地域生活の質の低下にもつながりかねない状況だと考えられる。



### 提案したい工夫

#### 八重瀬八景巡り+クリーンアップ活動

単に八重瀬八景を紹介するだけでなく、住民や関係機関からそのままにされている地域資源のクリーンアップ活動によって南の駅を窓口として観光客を呼び込み、住民と共に資源磨き×観光を創出する。活動に参加した人は南の駅に設置されている電光掲示板等で表彰する。南の駅で地域資源の維持活動となるクリーンアップの様子を情報発信していくことは地域資源に対する住民の認識を醸成し、生活拠点としての機能の充実にもつながるだろう。

これによって、地域資源を対象とした観光客と地域との協働の機会が生まれる。

